

自己評価結果公表

1. 本園の教育目標

キリスト教的人間観に基づき、乳幼児の個性を尊重し、適当な環境を与えて、心身ともに健康で調和のとれた発達を助長する。

2. 2024年度、重点的に取り組んだ目標・計画

- 幼稚園教育要領における「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を、モンテッソーリ教育を通して導き、年齢に応じて心身のバランスの取れた育成を目指す。
- 教職員間における連帯感・調和・共通理解のとれたチームとして一人ひとりが資質向上に努める。
- 保育環境整備に努め教師自身がその環境の一部であることを再認識し、園児一人ひとりが自己肯定感を高めることができるよう心掛けた保育を行う
- 幼稚園と保護者が互いに連携しながら子どもの育ちを導く。

3. 評価目標の達成及び取組状況

課題	具体的な取り組み方法
教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○園内研修を通して、協力し合いクラスの保育格差を改善する。 ○教職員一人ひとりがスキルアップを図り、教育の資質向上に繋げる。 ○モンテッソーリ教育を通して幼稚園教育要領の目指す「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」に導けるために、教育要領について研鑽する。 ○カトリック園としての理念を、司祭を招いて学び精神性を深める。
教育内容を深める	<ul style="list-style-type: none"> ○モンテッソーリ教育の文化教育を取り入れ、自己選択活動を広げる。 ○同年齢児活動にピアニカを導入し音楽教育の基礎を養う。 ○絵画製作活動を深め、様々な技法を通して自己表現活動の場を増やす。 ○書き方の指導により、正しい姿勢・筆順・美しい文字を習得する基礎を培う。 ○園訓【「愛し合いなさい・許し合いなさい」「はい」は、「はい」・「いいえ」は「いいえ」と言いましょう。】を通して、心を培う。 ○カトリック園として、生命の大切さ・個々の存在を互いに受け入れ合えるようにキリスト教精神を培う。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ○空き部屋をモンテッソーリ教育の文化教育の部屋として、教具・教材を常時設置・絵画室の環境整備を行う。 ○雲梯下にラバーチップを設置する。

保護者との連携 地域との連携 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○インクルーシブ教育システムを介して、幼小連携により小1の壁が緩やかになるように配慮を行う。 ○「花の会・役員」を園と保護者との懸け橋として、園と保護者が両輪となり、園運営を円滑に行う。 ○隣接する老健施設プリエール訪問。 ○関西フードバンク・神戸チャイルド・ケモハウスの両社を迎えて、おにぎり募金を園児から手渡し、社会貢献を可視化する。 ○未就園児1歳児～2歳児の子育て支援クラスの充実。 ○地域に根差した子育て支援を、ホームページの充実をはかる。
---------------------------	--

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

園内の環境整備が行き届き、開放感と共に清潔感がある。
 防犯カメラ等の設置により死角について、配慮され安全危機管理ができている。
 教職員間の雰囲気が良く、園児たちがのびのび過ごす姿が印象的である。
 保育・教育に関しては、モンテッソーリ教育と共に、リトミック・外国人による英語・体操と充実感があり、動と静のバランスがとても良く取れている。
 各クラスの先生たちは、それぞれの個性を大切にしつつ園児を温かく導いている姿が良く見受けられ、園児もそのまなざしの中で、安心して自己活動している。
 頂かり保育の時間について実用に合わせる工夫があればよいと感じた。
 登園・降園では、保護者が慣れた様子で急勾配で自転車の乗り降りが行われているが、安全面が気がかりである。
 立地条件の関係で、バス道から坂を上る角がわかりにくく、グーグルマップでは王子クリニックに誘導される点について改善されるとよいと感じた。
 宗教教育が定期的に実施され、施設内の聖堂を利用して心の教育が行われているのは、カトリック園としてとても良い習慣だと言える。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○外部研修会に積極的に参加することで、従来の保育から広がりのある保育を目指す。 ○モンテッソーリ教育に於ける理念を深め、観察力を通してさらに個々に応じた援助ができるように研鑽を積む。 ○教職員がキリスト教精神をはぐくみ平和な環境で保育に従事できるよう、カトリック司祭の講話を継続する。
教育内容を深める	<ul style="list-style-type: none"> ○モンテッソーリ活動が形だけにとどまることなく、一人ひとりの必要性を把握し、深めることで自立を促すようにする。 ○支援の必要な子どもたちが、それぞれ必要な関りを通して成長できるように、臨床心理士と連携を深める。 ○見せるための行事ではなく、日々の保育の積み重ねによる成長を大切

	<p>にしたあり方を重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え行動できるように、援助する。
環境設定・整備	<ul style="list-style-type: none"> ○砂場の道具の収納が、子どもたちの手でできるように棚を設置する。 ○園児自らが自分でできるように、教具・教材を整えるために必要な棚を設置する。 ○園内で使用可能な連絡手段として、トランシーバーを導入する。
保護者との連携 地域との連携 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○幼小連携の充実を図るために、近隣小学校1年生のカリキュラムと年長児のカリキュラムを互いに交換する。 ○隣接老健施設プリエールとの連携により、不審者対策を整備し互いに協力し合う。 ○花の会役員との協議の結果、おにぎり募金先の経営状況や方針を調べ、今後の募金先について再検討する。 ○1歳児～2歳児の子育て支援のあり方について再検討し、利用しやすい環境を整える。 ○ホームページのさらなる充実に努める。

● 2025年度、重点的に取り組む目標・計画

- モンテッソーリ教育を通して、教育要領の「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を具体的な取り組みや、同年齢活動による子ども同士の関りをさらに深めるように導く。
- 教職員間の連帯感・報連相・調和等、園児についての共通理解のとれたチームの育成。
- 幼稚園と保護者が信頼関係を構築し、互いに連携しながら子どもの育ちを導く。
- 教員一人ひとりが、教育についての資質向上に勉める。

● 2025年度の評価項目

- 一人ひとりの園児が、安心感の中でのびのび園生活を満喫する。
- 教職員の資質向上。
- 教育内容を深める。
- 環境整備（安全危機管理）
- カトリック園としてのキリスト教理念に基づきた教育
- 保護者・地域との連携
- 情報発信。

6. 学校関係者の評価

- 保護者からのアンケートを取る
- 第3者評価を受ける